

西水 美恵子

にしみず・みえこ=75年ジョンス・ホプキンス大学院卒、プリンストン大経済学助教授を経て、世銀副総裁。退任後、シンクタンク・ソフィアバンクのパートナーなどを務める。



インド建国の父マハトマ・ガンジーの非暴力・不従の政治思想と手法は、世界中の植民地

解放、民主化、公民権運動に大影響を与え続ける。ガンジーに倣い、米国の黒人暴動を平穏な公民権運動へと導いたマーティン・ルーサー・キング牧師や、ビルマの非暴力民主化運動を指導するアウンサン・スーチー女史、ダライ・ラマ14世などが広く知られる。ガンジーが心から敬愛した友で「辺境のガンジー」と呼ばれたカーン・アブドウル・ガファー・カーン氏もそのひとり。アフガニスタンとパキスタンに主に住むパシウトウン民族に属する彼は、同族10万人以上を動員し、非暴力・不従を武器とする組織「神の召し

ウェーブ 時評 2010.7.9

使いを築いて、印パ独立運動に大貢献を果たした。

パシウトウン族は、世界最大の家長制民族である。パシウトウンワリという厳しい掟を厳守し、「目には目を」の復讐を必然とした為、恐れられた。古代から武勇に秀でると名高い民族で、ギリシヤのアレクサンダー大王を驚嘆させ、アフガニスタンの英植民地化

1 通のメール

を妨げ、ソ連占領軍撤退の要となつた。が、近年はタリバンの汚名を被る。この民族を、非暴力・不従を武器に和平へと奮起させたのは、超人的な偉業だった。

し、アフガニスタンとパキスタンの民はいまだに和平を知らない。残酷なテロ事件が頻繁に起こる。昨今、両国からその都度メールが届くようになった。差出人は様々だが、皆申し合わせたように同じ1通のメールを転送してくる。インドのムンバイ市で列車同時爆破テロが起きた2006年7月11日、某インド高官がそのメールを

そして、キング牧師にも言及する。1963年、獄中の彼が運動停止を促す8人の白人牧師に宛てた手紙を引用している。「ひとつの不公平は、この世全ての公平を脅かす。我らは皆、不可避な相互関係の網にかかり、一枚の宿命の布で結ばれている。何事も一人の人間に直接影響を与えることは、全人類に間接的な影響を及ぼす」

「だから、初めての自信と切迫感を込めて、再び言う。世界中の貧困と戦わなければ、どの国の平和もただの紙の家。全世界が平和でなければ、どの国の豊かさもまた脆い。貧困と戦う君たちの情熱とプロフェッショナル精神を、今宵、心の底から誇りに思う……」

転送され続けるメールの曰は米国の同時テロ突発の日2001年9月11日。当日の真夜中近く、ワシントン上空を旋回する戦闘機の騒音を耳にしたが、私が世銀の部下全員に送ったメールだった。

1通のメールを転送し続ける南アジアの人々の想いはひとつ。ガンジーや「辺境のガンジー」のように、民の心を司るリーダーの到来を切に願うことだろう。